

# お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会  
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地  
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階  
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550  
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・森 和雄

2018 / 9

## 自分たちで旅しています！

一人ひとりの楽しみや楽しみ方

グループホーム銀河

I、II(神奈川県)では、男性ばかり十二人で暮らしている。ある時、茶話会の何気ない会話の中で「一度、みんなで銭湯に行ってみよう！」という話が入居者からもあがった。最初はひやひや

いざ、銭湯に行く日。支援者は日ごりの様子から入居者だけで大丈夫と判断。銭湯の前で別れ、そこから先は入居者だけで。これがきっかけとなって、入居者同士の経験はひろがり、入居者だけで旅行をする展開に。



大野さん(左)熊谷さん(右)本格的な撮影で思い出の一枚に

「近所はともかくも、いざ、入居者だけの旅行となると内心ひやひやもの。最初の頃は、心配でGHに待機していた。でも、みんなの自信や仕事の励みにもなっていると思う」と話すのはGH職員の塩附さん。

仲間と行くのもいいな「旅が好きで、一人旅は何回もした。でも、このGHでは、みんな旅する楽しさを知った」とは入居者の熊谷さん。「普通、みんな旅行する時は、支援者が計画してくれたり、同行してくれると思う。でも、自分たちで計画して、入居者だけで行くのもほんとうに楽しい」とも語る。

そうは言っても、突発的なこともおきて、メンバーの一人がダウンしたことも。その日は他の予定をキャンセル

ルしてそのまま旅館へ。ゆつくり過ごして、ことなきをえたそうだ。男旅で京都へ

昨年十月は七人で京都旅行へ。一か月以上の窓口に切符を予約。ホテルは、入居者の状況が様々なので職員と相談して、予約してもらった。旅行中、互いに歩くペースを合わせたり、体を気遣ったり。念願のコスプレ体験もでき、いい思い出が出たという。

一人ひとりの楽しみや楽しみ方がある。そうできるようみんなが応援しよう。



今回お話を伺った入居者の皆さん熊谷さん、大野さん、山本さん、嘉藤さん、三井さん、飯塚さん、銀河の管理者の塩附さん、他職員の方

## 信頼回復に向けて

障害者支援センターから皆様へ  
障害者支援センター 担当理事 森 和雄

このたび、地域活動支援センター事業障害者地域作業所型事業所において、本年二月に約一八〇〇万円もの多額の不明金の発生が、五月には通所者個人の預金や負担金等約百七十万円を着服という不祥事が立て続けに判明しました。いずれも法人の代表者や所長という、適切な運営責任を果たすべき立場にある人が引き起こしたという点で、大変重大な事態であり、何よりも通所者やそのご家族に対する背信行為が行われていたことを深刻に受け止めています。

支援センターが運営費を助成する事業所は、障害者とそのご家族等による運動の中から生まれ、行政や地域の皆様等、多くの方々の理解と協力の下で発展し

てきたものであり、かつ公金で運営されている事業です。

このたびの不祥事は、こうした長年の努力で築いてきた市民の皆様からの信頼に対しても影を落としかねないものであり、再発防止と適正な運営体制の確保に向け、真剣かつ早急な取組が必要であると考えています。現在、横浜市とも連携し、コンプライアンス等に関する研修、現金管理をはじめ事務の適正執行に向けた支援策や、監査の充実等の取組を進めているところです。

支援センターとして、二度とこのようなことを起こしてはならないという強い思いを、各団体の皆様と共有し、障害者の地域生活に向けた取組をさらに進めていく所存です。

# 自分らしく生きる福祉社会をめざして

誰かに優しくできること それはとても素敵なこと



このリーフレットは、障害がある当事者団体の私たちが思いを発信することで、障害の特性を知っていただき、理解していただけることを願って作成しました。

障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、ともに生きる社会をつくることをめざして、平成28年4月1日から「障害者差別解消法」がスタートしました。  
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 障害者団体部会

## 思いや体験を伝えることで、障害への理解につなげたい

横浜市内の障害当事者・家族の団体や障害者・家族などで構成される「横浜市社会福祉協議会障害者団体部会」では、当事者が思いを発信することで、障害の特性を知ってもらい、理解してもらおうことを願って、市民向けのリーフレットを作成した。

障害がある人それぞれ体験や思いが込められており、改めて気づかされることも多くある。例えば、「車いすだと、さすが固定されているゲームセンターやラーメン屋は利用できない」、「言われていることはわかるのに、付添の人に話しかける人がいる」、「心の病からの回復には、人と人とのつながりがとても大切」、「障害があっても働きたいし、恋人もほしい。楽しい毎日を過

ごしたい」など。心の病や内部障害のように、外見ではわかりにくい障害もある。

自分らしく幸せに生きたいという願いは誰もが同じだ。そして、障害があるからこそより一層、コミュニケーションは大切であり、周りのちよっとした優しさで暮らしやすくなる。障害者団体部会のメンバーは「皆の思いが詰まっているので、ぜひ多くの人に見てほしい。このリーフレットを活用して、障害への理解を深めてほしい」と語る。

リーフレットについての問い合わせは障害者支援センターまで。なお、障害者支援センターのホームページにも掲載している。

### ちょっとした優しさで、暮らしやすくなります

ゲームセンターに行ったら、いすが固定されていました。喫茶店やラーメン屋などの飲食店は固定席が多いのですが、固定席だと車いすのままで利用できないんですよ...

目が見えないので、「こっち」「そっち」と言われてわかりません。困っている時に「お手伝いしましょうか?」と声をかけてもらえるとうれしく感じます。

外出は人とのふれあいもあって楽しみですが、車いすで乗るトイレがあるが事前確認しなくてはならないし、エレベーターも混んでいたらなかなか乗れません。また、障害者用の駐車スペースがいつも空いていないで困ってしまいます。

車いすでするの時間がかかるので、乗客に迷惑そうなお顔をされてしまいます。電動車いすでも乗れるタクシーを探するのは大変です。

一人ではトイレに入れない息子と一緒に女性用トイレに入ると、好奇な目で見られます。

### 皆、自分らしく幸せに生きていきたい

パラリンピックの選手が活躍しているのをテレビで見ました。カッコよかったです。僕も頑張ろうと思いました。

障害があっても、働きたいし、恋人もほしい。楽しい毎日を過ごしたい。

今年就職した自閉症の息子は、毎日楽しそうに働いています。お土産で大好きなCDを嬉しそうに買ってきました。

# 私たちの思い～こんなこと あんなこと

### 障害者もコミュニケーションは大切です

耳が聞こえないので、口の動きで読み取ることもありますが、相手がマスクをしていると読み取ることができません。

自閉症の息子は、「ダメ」など否定的な言い方だとパニックになることがあります。でも、この前、高いところを上ろうとしたら「降りましょうね」と優しく声をかけてもらって、素直に降りてくることができました。

言葉に障害があるので、伝えたいことを理解してもらおうに時間がかかります。一生懸命理解しようとして聞いてくれるとうれしいです。

脳性マヒだけど、言われていることはわかります。それなのに、自分ではなく、付添の人に話しかけたり説明する人がいます。話し相手は自分なのに...

心の病からの回復にとって、人と人とのつながりはとても大切だと感じています。新しい出会いが訪れ、支えになる人が増えるたびに、回復の道を歩んでいることが実感できます。

### 心の病や内部障害のように、外見ではわかりにくい障害もあります

オストメイト(人工肛門・人工膀胱)の人は、多目的トイレが必要ですが、本当に利用したい時に利用できなくてハラハラしたことがあります。

ペースメーカーを入れているので、ヘルプマークを靴につけています。マークを見た人が電車で席を譲ってくれて、助かりました。

優先席に座っていたら、イヤな顔をされました。人工透析をしているのですが、外見ではわかりにくいので、イヤな顔をされたくないんですよ...

## 平成三十年度進路対策研究会 調査結果 （卒業生一、〇〇〇名に向けて資源の整備を）

特別支援学校等卒業生は急激に増加しており、生徒数の推移は表1のとおり（※小中学校は、個別支援級在籍生徒数もカウント）。

平成三十年度（現高三）は七八十名、平成三十七・三十七年度（現小六・小五）では一、〇〇〇名を超える見通し。

平成二十九年度進路結果と今後の予測  
平成二十九年度卒業生は七六五名。進路先は、障害福祉サービス事業所、作業所型、機能強化型・社会福祉法人型活動ホームなど福祉系の活動場所が全体の約5割強（四一四名）。就労は三割強（二六〇名）で昨年度より増加。障害者法定雇用率の引き上げの影響かと思われる。他一割ほどは進学（大学や専門学校、母校の専攻科など）。

職業訓練など。今後三年間も進路希望・予測傾向は大きくは変わらず、資源の量的整備が必要だ。

知的・発達障害のある生徒の進路は

今回は知的・発達障害のある生徒の進路について、横浜市立野中央高等特別支援学校進路担当の鍋田厚氏に聞いた。

「障害の受容が難しいなどの理由により不登校の生徒が増えていく。保護者や担任の教諭、中学校個別級の教諭などとの情報共有はかかせない。また卒業後も含め在学中からケータイ、スワーカー、基幹相談などにつなげる努力をしている。卒業後の進路については、東京と横浜では就労の際に企業から求められる条件が若干異なっているこ

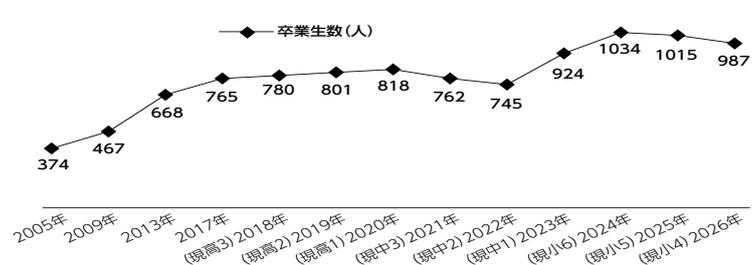
とも現在の課題。障害のある生徒をめぐる状況について、進路担当は日々福祉制度の勉強をし、情報のアンテナを張っている。今後、さらに進路対策研究会などで情報収集や共有を図っていくことが求められる」と語る。

◆平成三十年度「進路対策研究会」委員長 相田泰宏氏（横浜市立上菅田特別支援学校）より

特別支援学校等の子どもたちは、日々の生活を送る上で何らかの支援が必要だ。必要とされる支援内容やその程度は個々によって異なるが、卒業後の進路先においてもそれは変わらない。障害があっても子どもたちが自らの意思で進路を選択できる・・・障害によって選択肢が限定されない、すべての選択肢において必要な支援が受けられる、そんな社会であるために、今の横

浜では何が足りないのか、また何をすべきなのか、考えなければならぬ。

表1：特別支援学校等高等部卒業生推移（結果・予測）



\*進路対策研究会 昭和五九年（一九八四年）より横浜市内在住の生徒が通う盲・聾・特別支援学校、養護学校、サポート校、技能連携校、高等専修学校、フリースクール等四十三校（分教室を含めると五十九校）の進路担当者及び行政担当者、教育委員会担当者が集まって進路に関する調査、諸問題の検討を行っている。



### 港南地域活動ホームの長谷川 登志子さん

長谷川さんが港南地域活動ホームひのでボランティアを始めたのは、平成二年の桜の季節。前年十一月に開所した活動ホームの前を通るたびに「何をしたいのかしら」と気になっていた。意を決して門戸をたたいたところ、とても温かく迎えられる。「明日から来られますか?」「はい」これが活動ホームと長谷川さんの出会い。

それから三十年近く、長谷川さんは、活動ホームのみんなが楽しい時間も悲しい時も寄り添い活動を続けている。現在も週二日、送迎や食事の見守り、作業のアドバイス、何より楽しみにしているのがメンバーさんのおしゃべりの時間。長谷川さん



長谷川登志子さん

がお休みの日にはメンバーさんから「長谷川さん休みななの?話したいことがあったのに」との声がある。職員さんは「変化が苦手なメンバーもいる中で、変わらずそこに居てくれる長谷川さんの存在は大きな安心感です」と話してくれた。長谷川さんに活動を続ける原動力を尋ねたところ「これまで辞めたいと思ったことは一度もない。みんなの笑顔を見るだけで嬉しい。自分一人ではとても続けられなかった。みんなのおかげ」とのこと。

素敵な出会いがあつて、縁があつて、みんなの笑顔に支えられ、長谷川さんの今の活動があるのだと感じた。

# グループホームをバックアップ モニター活動を活用しよう！

B型グループホーム  
(以下GH)へのモニ  
ター活動が開始されて  
七年。第三者であるモ  
ニター委員がGHを訪  
問し、入居者や職員の話  
を直接うかがい、グ  
ループホームの運営や  
援助内容を見守る活  
動。モニター委員は、  
当事者・家族・弁護士・  
社会福祉士・精神保健  
福祉士・学生・市民な  
ど、様々な立場の方で  
構成されている。二十  
九年度は二十三ホーム  
で実施。関わったモニ  
ター委員はのべ四十五  
人だ。

「モニター活動  
を受けて」



亦野さん(左)、岡林さん(右)



瀬戸さん(左)、平山さん(右)

か所の実践やモニター活動を受けた感想など(研修会詳細は囲み参照)が報告された。本人の不安に向き合う「特定非営利活動法人四季の会 グリーンテラス四季」平成二十六年に開所し、入居者は主に精神障害のある方々で、八名が暮らしている。支援方針で大切にしていることは「入居者一人一人としっかり向き合えるか」だ。例えば「明日通所できるだろうか」という不安がある場合、朝起きられないことが不安なのか、公共の交通機関を利用することが不安なのかなど、具体的に話しながら一緒に考えている、と管理者の亦野さんは語った。モニター委員の岡林さんは「明るくのびのびとした雰囲気。規則に縛られず、入居者の自主性を大切にする姿勢が感じられた」との感想を述べた。

高齡介護事業などを主に展開する法人が、平成二十七年、障害のある方のGHを開所。司、司IIはそれぞれ男性九名が入居している。ここは、特に家族とのつながりを大切にしている。具体的には主に家族を対象に、月一回、「通信」を発行。支援のなかで上手いかないことがあっても、家族と共有して一緒に考えることを大切にしている。今回のモニターを受け、管理者の平山さんからは「日頃の支援の振り返りになる良い機会だった。入居者の方にとっても新鮮な出来事になったようだ。モニター報告を受け、早速防犯対策の見直しをするなど、必要な改善にもつながった。閉鎖的ではない、風通しの良い環境づくりのために、こう

いった機会をぜひ他のGHでも活用してほしい」と報告があった。一方、モニター委員の瀬戸さんは「玄関に油絵が飾られているなど、明るい雰囲気。印象に強く残っているのは、スタッフが喜びを感じながら支援にあたっていている様子。入居者からも『ここにきて良かった』という声があり、様々な年代の職員がいることが相談しやすい雰囲気になっていいると思われた。また、入居者が交代で町内会の回覧板を回すなど、地域とのつながりを大切にしている」と報告。ご自身もモニターング委員として活躍し、当日研修の進行を務めた青木弁護士は「今回、GHやモニター委員の報告からは、『求められていることは何なのか』を支援者が自問自

答しながら支援している様子がよく表れていた。第三者の立場から見ることが日々の工夫や改善への取り組みにつながってほしい」とまとめた。

モニター活動は孤立しがちなスタッフの話や聞きなど、GHのバックアップが目的。その一環として各分野の専門職を直接GHへ派遣する巡回相談も合わせて実施している。どちらも、大いに活用してもらいたい。

研修会詳細  
【第1部】「グループホームの実践報告とモニター活動」  
1. 主に精神障害のある方への支援の実践をとおして  
①岡林 郁子氏(モニター委員)  
②特定非営利活動法人四季の会 グリーンテラス四季 管理者 亦野 謙介氏  
2. 主に知的障害のある方への支援の実践をとおして  
①瀬戸 操氏(モニター委員)  
②社会福祉法人愛光会 グループホーム司・司II 管理者 平山 美知子氏  
【第2部】参加者によるグループディスカッション

モニター活動は孤立しがちなスタッフの話や聞きなど、GHのバックアップが目的。その一環として各分野の専門職を直接GHへ派遣する巡回相談も合わせて実施している。どちらも、大いに活用してもらいたい。

# 見まもりの輪を広げるために あんしんキーパーとのさらなる連携



参加者の熱い想いがあふれる会となった

身近なところで登録者をさりげなく見まもる「あんしんキーパー」(以下、「キーパー」)。登録者が安心して暮らしていくためには、後見的支援室とキーパーとの連携が欠かせない。今回は『栄区後見的支援室とんぼ(以下、「とんぼ」)の実践を紹介する。

この温かく力強い提案を受け、とんぼでは開催方法を検討。見まもりの輪をさらに広げるために、地域ケアプラザとの連携も深めていこうと考え、地域ケアプラザの担当エリアごとに『あんしんキーパー地区別つどう会(以下、「地区別つどう会」)』

を新たに開催することになった。七月十九日、豊田・笠間地区のキーパーを対象に豊田地域ケアプラザで開催した。八名のキーパーとケアプラザの職員やとんぼのスタッフが参加した(計十九名)。地域で活動している中で、感じていることや悩んでいること等を自由に話していただいた。「地域にはこの制度を知らない人が多い。必要な人に情報が伝わるように、もつと周知を頑張ってほしい」という要望も挙げられた。

平成二十八年に行つた『つどう会』に参加し、キーパーに登録した多田さん。まだ、見まもる登録者は決まっていないが、地域の協力者の一人だ。多田さんは「すでにキーパーとして活動している方から具体的なお話を聞くことができ参考に

なった。身近な地域で障害理解を進めていく方法として、この会は良かったと思う」と語った。また、豊田地域ケアプラザ・地域包括支援センターの笹目さんは「日ごろ、地域の方たちの様々な相談を受けている。その中で、この制度を必要としている方がいたら、とんぼを紹介していきたい」と語った。

これからも  
とんぼの長谷川さんは「一人ひとりの顔を見ながら話ができたと、キーパー同士、キーパーと地域ケアプラザの職員、そして、とんぼのスタッフが、お互いのことを身近に感じることができた。今後、キーパーや地域の方たちとのつながりを深めていきたい」と語った。九月以降、残りの地区でも『地区別つどう会』を開催する。とんぼの実践は、これからも続いていく。

キーパーの声から  
とんぼでは、平成二十五年から、キーパーとの交流を目的とした『あんしんキーパーつどう会(以下、「つどう会」)』を年一回開催してきた。前回、参加したキーパーから「キーパーが増えてきたので、地区別に開催したらよいのではないか」という意見をいただいた。

七月十九日、豊田・笠間地区のキーパーを対象に豊田地域ケアプラザで開催した。八名のキーパーとケアプラザの職員やとんぼのスタッフ参加した(計十九名)。地域で活動している中で、感じていることや悩んでいること等を自由に話していただいた。「地域にはこの制度を知らない人が多い。必要な人に情報が伝わるように、もつと周知を頑張ってほしい」という要望も挙げられた。

とんぼの長谷川さんは「一人ひとりの顔を見ながら話ができたと、キーパー同士、キーパーと地域ケアプラザの職員、そして、とんぼのスタッフが、お互いのことを身近に感じることができた。今後、キーパーや地域の方たちとのつながりを深めていきたい」と語った。九月以降、残りの地区でも『地区別つどう会』を開催する。とんぼの実践は、これからも続いていく。

えだ福祉ホームで、織作業やお菓子作りに携わる太田依里さん。そんな太田さんはピアノリストであり作曲家の顔を持つ。母がピアノの先生をしていることや周囲の勧めから、ピアノを始めたのは三歳八か月。十四歳からは作曲を始めた。一曲を仕上げると時間は一時間程度。タイトルからイメージして曲を作り上げていくスタイルで、これまでに百五十曲以上が生み出されてきた。その中には、えだ福祉ホームでの活動をイメージした曲も。

依里さんの頭の中には  
印象的なタイトルの各CDは購入可能です。お問い合わせはえだ福祉ホームまで。



えだ福祉ホーム(青葉区)

太田 依里さん



いつも音楽が流れているのだそう。特に和声が素晴らしいとの評判だ。十八歳の時に発表した「Dream」以降、「きぼうの芽」「はるかなる空へ」「風の列車」の計4枚のCDは、太田さんにとって人生の大切なタイミングに制作された。企業CMやテレビ・ラジオ等で曲が使用されるなど、その活躍は多方面に広がっている。



印象的なタイトルの各CDは購入可能です。お問い合わせはえだ福祉ホームまで。

# あゆみ荘 だより

## ◆バスケットボール教室を開催！

横浜あゆみ荘では、七月二十一日(土)にプロバスケットボールBリーグ『横浜ビー・コルセアーズ』の選手、コーチ、スタッフを講師に迎え、余暇活動支援事業『障害のある方のためのバスケットボール教室』を開催しました。この事業は、『横浜ビー・コルセアーズ』の協力のもと、隣接する都筑地区センターとの共催事業として実施。



参加者全員で集合写真

を合わせ総勢五十名の参加者が楽しい時間を過ごしました。憧れのプロバスケットボール選手の熱い指導のなか、参加者の皆さんは、ドリブル・シュートなど基礎練習でコツをつかみ、その後のミニゲームでさわやかな汗を流しました。参加者からは「プロの選手と練習や試合ができてとても楽しかった」、「教室の回数をもっと増やしてほしい」などの感想や「ダンス教室もやってけると嬉しい」など今後の希望も寄せられました。

## ◆障害のある方の手作り製品を多数揃え販売しています

横浜あゆみ荘一階ロビー売店では、横浜市内の地域活動支援センター作業所型などで障害のある方が製作している手作り製品を多数揃え販売しています。

今年度は、五十七団体から、布ぞうり、さ



心を込めた手作り製品が多数

をり織りポーチなど約百七十点の製品を順次取り寄せています。障害のある方々が心を込めてつくりあげた手作り製品を手にとっていただき、ぜひお買い求めください。

◆横浜あゆみ荘 年末年始の休館及び、施設点検整備のための臨時休館のお知らせ

【年末年始の休館】平成三十年十二月二十八日(金)から平成三十一年一月三日(木)まで

【施設備点検に伴う臨時休館】平成三十一年一月二十四日(木)から二月二日(土)まで

お問合せは、横浜あゆみ荘まで

045(941)8383

## ハートメイド通信

表紙を一新したハートメイドカタログ。掲載されている新商品の中から、「あおば地域活動ホームすてっぷ」が作製している「むじなクッキー・まるクッキー」をご紹介します。

青葉台駅からおしゃれな街並みを歩くこと約五分。閑静な住宅街の中に「あおば地域活動ホームすてっぷ」があります。

すてっぷでは、十二人のメンバーが、できる作業を分担してクッキーを作っています。材料を計量する人、生地を型抜きする人、パッケージをする人等々。機械を操作して生地をこねているメンバーさんは、七年もこの作業を担当しており、とても手際が良く、他のメンバーさんも担当の作業を丁寧に行なっています。

ラン職人のようです。



人気商品のまるクッキー



丁寧に作業をしています

お立ち寄りください。【お問い合わせ】あおば地域活動ホームすてっぷ

045(988)0222 ハートメイド商品がネット販売開始！

ハートメイド商品がホームページより注文できるようになりました。以前はFAXか電話で注文を受けていましたが、4月よりホームページ上にオーダーシステムが完備。より手軽に商品を注文できるようになりました。カタログのデジタルブックで商品を探し、お好みの商品が見つかったら、オーダーシステムに入力するだけ。是非、ハートメイドのホームページをご覧ください。

※ホームページは「ハートメイド通販カタログ」で検索！

【お問い合わせ】障害者支援センター

045(681)1131